

## 第 34 回地方独立行政法人神戸市民病院機構評価委員会 欠席委員の意見

○事業報告書について、法人が取り組んだ業務の実績については、よく理解できるが、今後、取り組む必要がある事項であるとか、改善すべき点なども見えるようになれば、なお一層、分かりやすくなると思う。業務実績報告にそういった観点を盛り込むなどの工夫について、今後検討して欲しい。

(回答)

事業報告書については、概要版として、グラフや写真なども用いて視覚的にもわかりやすい資料作成に心掛けている。基本的には、当年度に行った取り組みのうち、特に実績のあがった取り組みを中心に取りまとめているが、ご指摘も踏まえて、来年度以降の事業報告書には、今後の課題や改善すべき点も盛り込むなどの工夫について検討したい。

○団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年に向けて、在宅医療と介護を一体的に提供する地域包括ケアの推進という視点を踏まえて、市民病院が果たす役割を考えていく必要がある。この地域包括ケアの推進は、市民病院のみで完結するものではなく、地域の医療関係者や介護関係者等とも顔の見える連携を図り、進めていく必要があると考える。

(回答)

第 2 期中期目標・計画の中で、地域包括ケアシステムに、病院の機能に応じて協力して取り組むことについて定めるとともに、昨年策定された地域医療構想の中で、市民病院の役割として、市の地域包括ケアシステム構築に向けた施策への貢献が定められており、それらに基づき、地域との連携や支援の強化に取り組んでいる。今後、市における地域包括ケアシステムの検討状況などを勘案し、第 3 期中期目標・計画の検討の中で、改めて考え方を提示させていただきたい。

○病院を取り巻く環境が厳しい中、より効率的な体制を構築することが求められており、従来通りの組織にとらわれることなく、セクショナリズムなどの組織の硬直化を解決し、問題の共有化を図ることが必要である。また、看護師をはじめとした医療職について、医療必要度や看護必要度などを勘案し、より質の高い医療を提供できる人員配置を検討するべきである。

(回答)

これまで、柔軟で機動的な組織運営に取り組んできたところであるが、職員の情報共有・情報の引継は大変重要であることから、今後も、社会情勢や医療現場の変化に対応できるように、これまで以上に柔軟で機動的な組織の構築を行っていききたい。また、看護職員については、診療体制・施設基準を満たす最低限の配置を行っているところであるが、機構の経営状況を踏まえ、より柔軟で効率的・効果的な人材配置について、引き続き検討していききたい。